

「何者か」を説明できない 言葉の迷いが、手を止めていないか。

- ▶ 肩書きが言えず、説明に窮する状態
- ▶ 発信のたびに迷い、言葉に「借り物感」がある
- ▶ 投稿ごとに軸がブレ、誰向けか曖昧
- ▶ 自分の言葉に自信が持てず、手が止まりやすい
- ▶ 「自分の土台」がまだ構築されていない感覚

「判断基準」という名の肩書きの欠如

基準の不在 肩書き未設定による判断基準の不足

起点の損失 発信の起点が毎回リセットされている

位置の不確定 自分の立ち位置が確定していない

言葉の漂流 誰に届けるか不明確で、言葉の軸が存在しない

= 自分の活動が整理されず、土台が未構築の状態

「完成」を待つのは、罨です。

- × 実績がないと名乗れない
- × 正解の肩書きを探し続ける
- × 名乗りは後回しでいい

名乗りが、あなたの軸を作る。

仮でもいい。自分の言葉で定義すること。
その決断が、発信のすべてを支える構造になる。

「仮の名乗り」を基準に発信を設計する

再設計のステップ

1. **仮の設定**：完璧を求めず、現時点の自分の言葉で名乗る
2. **基準の使用**：発信内容やテーマ選定の判断基準にする
3. **トーンの統一**：肩書きから「誰に話すか」を決め、トーンを整える
4. **動的修正**：ズレは後から修正することを前提に運用する

迷いが消え、スピードが変わる

- ✓ 言葉の迷いが減り、発信スピードが劇的に向上する
- ✓ 対象読者が明確になり、投稿の一貫性が生まれる
- ✓ 反応のブレが減少し、自己納得感が向上する
- ✓ 誰に届けるべきかが研ぎ澄まされ、発信が安定する
- ✓ 「自分はこれでいい」という確実な土台が完成する

名乗りを確定させる5分ワーク

- 「私は〇〇の人」と一文で書き出してみる
- 今の自分の等身大の言葉を使い、完璧を求めない
- その肩書きを掲げて、まずは一投稿書いてみる
- 書き終えた後の「しっくり度」を確認・記録する
- 違和感があれば翌日に修正し、ブラッシュアップする**

自分の言葉で定義した瞬間、迷いは武器に変わる。

この資料は、発信の軸を守る「修正装置」

発信停止時の再起動用 / 肩書き見直しの基準
軸ブレ検知のチェック用 / 言葉迷いの修正装置
発信土台の再確認 / 違和感の言語化ツール

発信の起点として、何度でも立ち返ってください。

どちらの積み上げを選びますか？

不透明な継続

名乗らずに発信を続ける
借り物の肩書きで進む

**迷いながら
積み上げる状態**

軸のある前進

仮で名乗って進む
自分の言葉で定義する

**軸を決めて
積み上げる状態**

※必要な人だけ、次に進む選択を。